EBARA IR Day 2024

2024年10月9日（水）9:30～11:30

荏原のエネルギービジネスと脱炭素社会に向けた取り組み



細田　修吾

執行役

CFO（経営企画／財務／会計／税務担当）



宮木　貴延

執行役

エネルギーカンパニープレジデント

Elliott Company CEO

荏原エリオットエネルギーホールディングス株式会社Chairman 兼 CEO



塚本　輝彰

ＣＰ水素関連戦略

ビジネスユニット統括部長

スケジュール

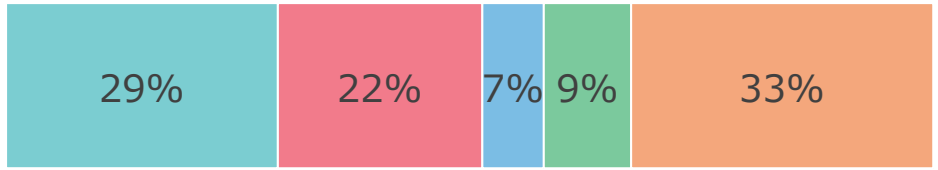
09:30	開会
09:45	セッション１／エネルギーカンパニーのビジネス概況及び脱炭素社会に向けた取り組み 質疑応答
10:35	セッション2 ／水素関連事業の進捗状況と将来展望について 質疑応答
11:30	閉会

エネルギーセグメントの位置づけ

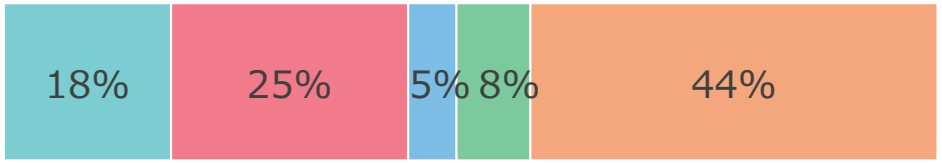
- エネルギーセグメントは、現行の中期経営計画「E-Plan2025」において、『成長への転換を図る事業』の位置づけ
- コンプレッサ・タービン、クライオポンプ、カスタムポンプの事業統合により、蓄積された技術の融合とシナジーの最大化を図る
- 対面市場が直面するアンモニア、水素等へのエネルギートランジッションをサポートするソリューションの提供

FY23　売上収益と営業利益のセグメント別構成

売上収益構成　（全社：7,593億円）



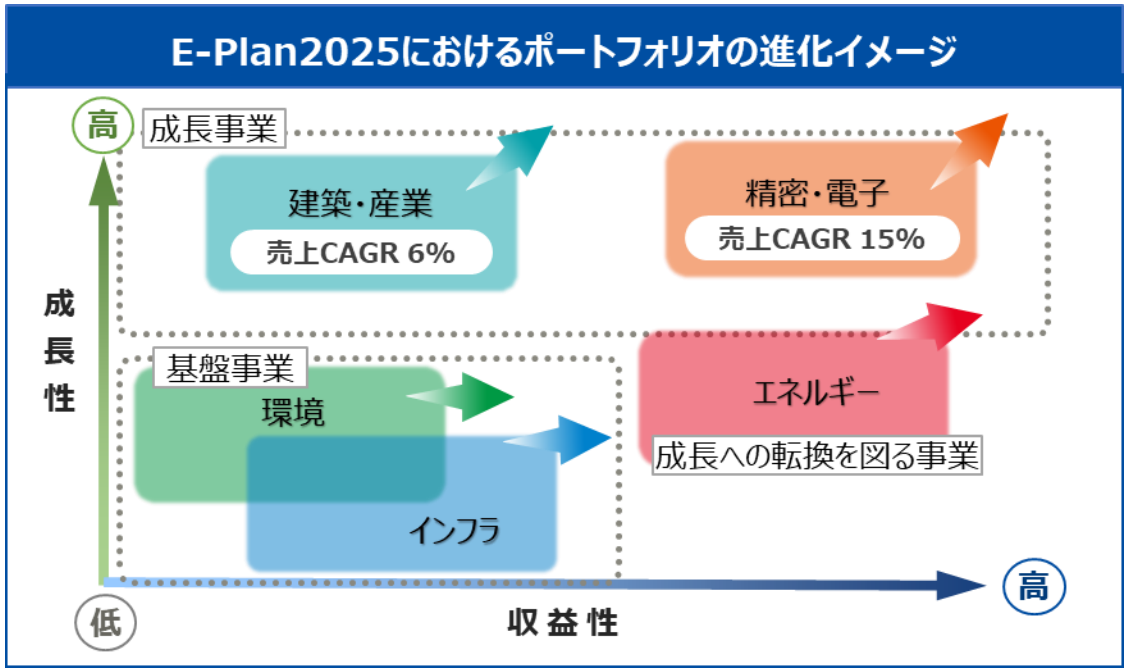
営業利益構成（全社：　860億円）



建築・産業　エネルギー　インフラ　環境　精密・電子

エネルギーセグメント
・売上収益 1,672億円　構成比 22%
・営業利益　 223億円　構成比 25%

E-Plan2025における位置づけ

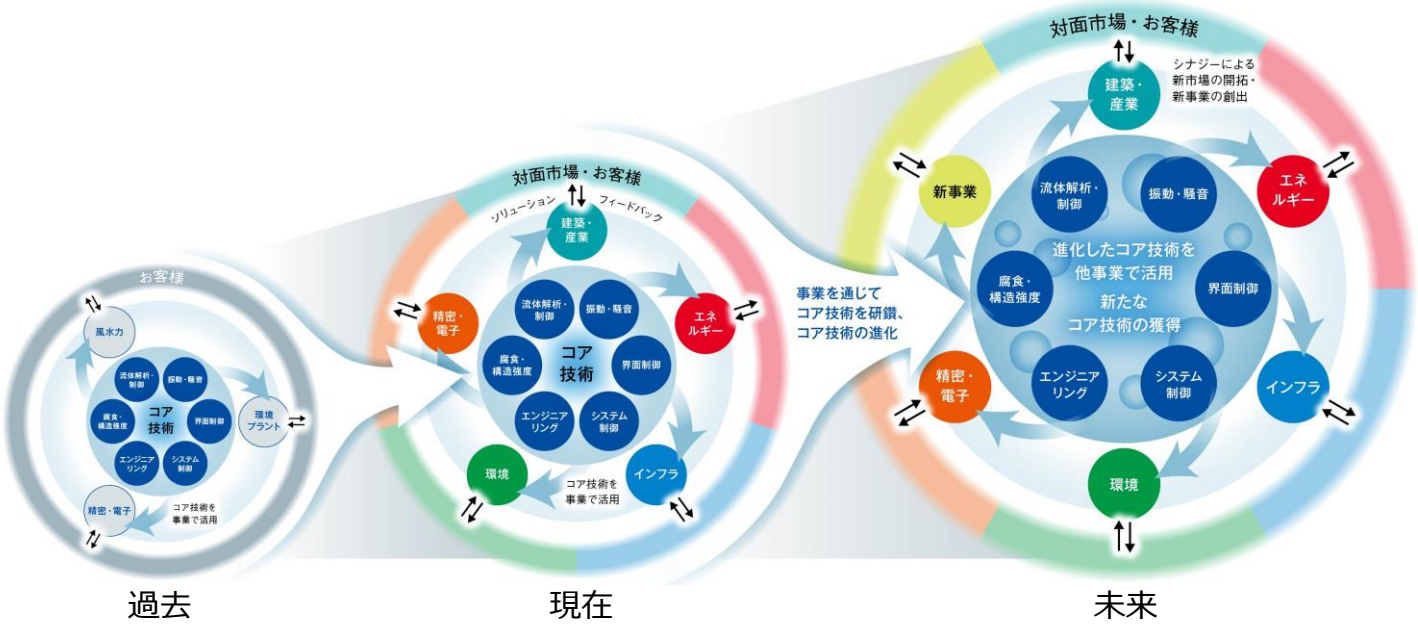


Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

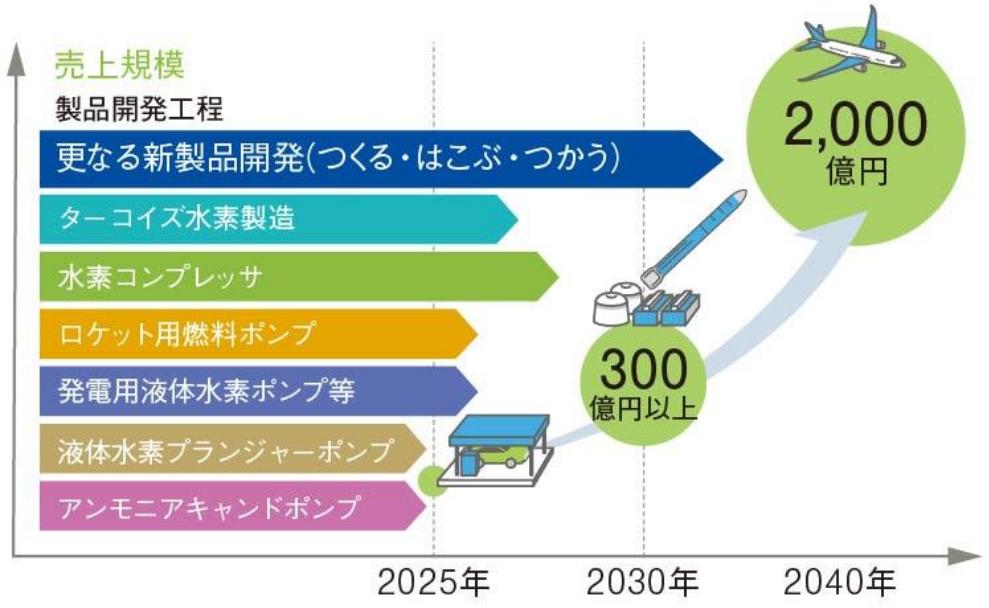
水素関連事業の位置づけ

- コーポレート内のSBU(Strategic Business Unit)、事業化を目指すステージの位置づけ
- LNG向けのクライオポンプで培った極低温技術、複数の事業から蓄積された材料技術と流体技術を活用し、液体水素ポンプを開発・上市
- 液体水素ポンプなどの供給により水素サプライチェーンの社会実装に貢献し、水素関連事業で2040年までに2,000億円規模への成長を目指す

荏原のコア技術の進化と事業シナジーの好循環による水素関連事業創出イメージ



水素関連事業の事業規模成長イメージ



Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

エネルギーセグメント及び水素関連事業における当社の取り組み

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを加速し、長期ビジョン「E-Vision2030」で掲げる持続可能な社会の実現に貢献していく

取り組み	プレスリリース
> 世界初の液体水素昇圧ポンプの開発に成功	2023年　2月24日
> 液体アンモニア用キャンドモーターポンプ開発	2023年　9月　4日
> 世界初の水素を燃料とした吸収冷温水機を開発	2023年12月　7日
> Ebara Elliott Energyがタイで初となる持続可能な航空燃料（SAF）プロジェクトでコンプレッサを受注	2024年　5月　7日
> 株式会社トクヤマと水素焚吸収冷温水機の実証試験に関する覚書を締結	2024年　7月22日
> 液体アンモニア用キャンドモータポンプの実液を用いた運転に成功	2024年　7月29日
> 液体水素ポンプの実液試験設備を完備した世界初の実スケール商用製品試験・開発センターを新設	2024年　9月12日
> 将来宇宙輸送システム株式会社と電動ポンプを活用したロケットエンジンの開発に関する包括協定を締結	2024年　9月27日

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

エネルギーセグメントの主な進捗（プレスリリース）

・液体アンモニア用キャンドモーターポンプを開発（2023年9月4日リリース）
・液体アンモニア用キャンドモータポンプの実液を用いた運転に成功（2024年7月29日リリース）

■ 背 景

・世界的な脱炭素化の流れの中、アンモニアを燃料として利用する検討が日本を中心に進む

・燃料用途として広く活用されていく中で、アンモニアをより安全に移送することが市場から求められている

■ 概 要

ポンプの特徴	・燃料アンモニアを取り扱う設備で使用可能なポンプを開発 ・モータ部分まで液体アンモニアに没液させる構造の採用により、外部へ液体アンモニアを漏洩させずに使用可能
実証試験結果	・客先サイトで、液体アンモニア実液を用いた実証実験に成功 ・設計構造の確実性だけでなく、安全面や環境負荷低減につながることも同時に確認



液体アンモニア用キャンドモーターポンプ

Ebara Elliott Energyがタイで初となる持続可能な航空燃料（SAF）プロジェクトでコンプレッサを受注（2024年5月7日リリース）

■ バンコクで展開している持続可能な燃料開発プロジェクトの概要

運営	・BSGF社 （Bangchak Corporation Public Company Limited、BBGI Public Company Limited、Thanachok Oil Light Company Limitedの合弁会社）
概要	・タイで初めての、持続可能な航空燃料（SAF）の商業生産ユニット ・SAFの生産により、航空業界の温室効果ガス排出量を、年間約80,000トン削減することが可能

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

水素関連事業の主な進捗（プレスリリース）

世界初の液体水素昇圧ポンプの開発に成功
（2023年2月24日リリース）

■ 背 景

・2050年に世界のエネルギー貿易額の10%以上が水素へ
（2022年IRENA ＜国際再生可能エネルギー機関＞発表）

・当社は2021年8月に、コーポレート直下の事業ユニットとして、水素関連事業プロジェクトを発足

■ 概 要

・2019年よりNEDOの助成事業として、世界初の水素発電向け「液体水素昇圧ポンプ」を開発

・液体水素による実液試験（-253℃）の結果は良好



液体水素昇圧ポンプ

液体水素ポンプの実液試験設備を完備した世界初の実スケール商用製品試験・開発センターを新設
（2024年9月12日リリース）

■ 背 景

・世界的な脱炭素化の流れの中、燃焼時にCO2を排出しない水素は、温暖化対策の切り札として期待される

・当社は既に、世界初の液体水素昇圧ポンプを上市

・液体水素ポンプの安全且つ安定的な使用には、出荷前の液体水素実液を使った性能試験が必須。当社は本センターの設置により、いち早く試験体制を整える

■ 概 要

所在地	千葉県富津市（自社所有地）
投資額	約160億円
施設内容	・液体水素ポンプ製品性能試験設備、関連要素技術開発設備 など （天候に左右されない屋内閉鎖型試験施設）
竣工	2026年6月（予定） ※2025年に一部試験設備の運用開始予定

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Appendix：2024年9月12日のニュースリリース
液体水素ポンプの実液試験設備を完備した世界初の実スケール商用製品試験・開発センターを新設

液体水素ポンプの実液試験設備を完備した世界初の実スケール商用製品試験・開発センターを新設
～総額約160億円を投じ、水素社会の実現に向けて荏原が日本の社会インフラを技術で支える～

2024年09月12日



商用製品試験・開発センター外観イメージ

荏原製作所（以下：荏原）は、水素社会の実現に貢献するために、水素インフラ関連機器の商用製品試験・開発センター（以下：本センター）を千葉県の富津市内に新設します。

1．背景

世界的な脱炭素化の流れの中、燃焼時にCO2を排出しない水素は、温暖化対策の切り札として期待されています。荏原グループでは、水素を「つくる・はこぶ・つかう」のすべての分野で水素関連技術の社会実装に向けて、グループで保有する技術・事業の活用に取り組んでいます。既に、世界初の液体水素昇圧ポンプを上市し、世界各国で販売活動を展開しています。

2．概要

本センターは、日本や世界各国が進める水素サプライチェーン構築に必要不可欠となる液体水素ポンプの社会実装を確実に遂行するための、液体水素（実液）を用いた製品性能試験や要素技術開発を目的とした拠点です。液体水素向けポンプの実液を用いた実スケール商用製品試験設備としては、本センターが世界初となります。

Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

免責事項

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。